木材加工をベースに機械加工の可能性を拡大し

新しい日本のモノづくりを提案する

Machining JP CORE

新産業メディア

マシニングコア

2012年7月号

森林・林業・環境機械展示実演会

11月11日(日)～12日(月) 静岡県掛川市

小笠山総合運動公園内

エコパグラウンド

公共物件向けに平安FZ-60Wを導入
ツーバイフォーラインの増設も

絶対的な価格競争力と加工精度を追及

シー・エス・ランバー 東金本社

幕張事務所

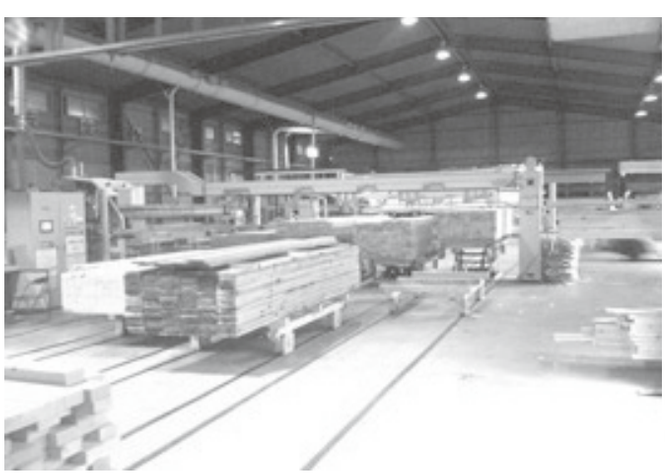
株式会社
シー・エス・ランバー

〒283-0833 千葉県東金市滝沢字手城沢643-1
電話0475-55-9591　FAX 0475-53-8426

プレカット大手のシー・エス・ランバー（中井千代助社長）は今年1年の目標を「絶対的な価格競争力と加工精度の追求」と定め、営業と物流の改革を推し進めている。本誌取材班は同社幕張事業所にてプレカット事業の最新動向について聞いた。

シー・エス・ランバーといえば、全国600社あるプレカット工場の中でもトップクラスの生産量で知られ、ポラテック、テクノウッドワークス、中国木材、日本プレカットシステム（宮本工業）、ハイビック、江間忠に続く、全国7番目の規模を誇る。月間生産量1万坪クラスのプレカット工場として首都圏で木造軸組とツーバイフォー工法のプレカットを行なっている同社。平成23年度のシー・エス・ランバーは経常利益で約2億円の黒字。月平均で見ると在来330棟、ツーバイフォー90棟という規模。4月までの5カ月間の数字で見ると在来は1,520棟（小規模物件除く）、ツーバイフォーは5ヶ月間で430棟。

好調なのは設立4年目となるツーバイフォーのパネルライン。この



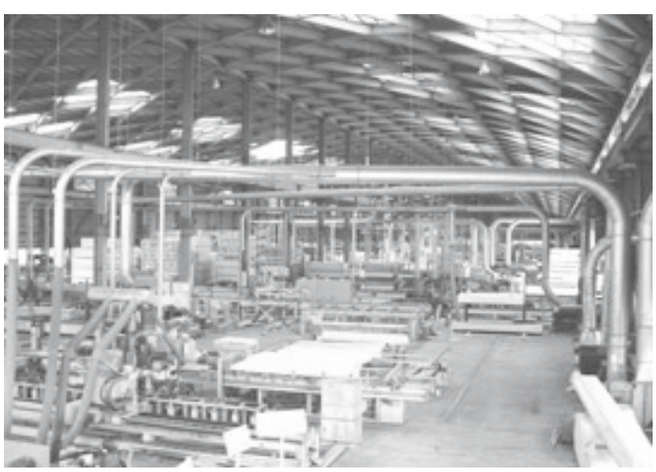
山武工場（在来工法・在来金物工法併用・金物工法）ではこの夏から公共建築向けに平安 FZ-60W を導入

半年間で2万6,000坪出荷している。同社の強みはツーバイフォーパネルの製造である。アセンブル（組み立て）だと専業ランバー工場の供給量が多いので、同社はパネル製造で付加価値をつけている。4月からは東金工場に1ラインを追加。生産拠点の集約化を図るデベロッパーの設備を東金工場に移したことがきっかけ。4月からの生産キャパは新ラインで月産600～800坪。これまでのシージングマシンの月産3,000坪と合せると3,600～3,800坪規模となる。ツーバイフォーでは毎週水曜日に営業・CAD・製造工程会議を行なっている。

物流の改革も進めている。特にパネルの物流コストの削減を図るため2週間に一回会議を開いている。一般的な軸組工法と比べるとツーバイフォーパネルの運送ではトラックが5～10台増えるため、邸別運送費の管理は欠かせない。今年は新卒のうち4名がCS物流の社員として邸別配送の任務につく。パネルで生きていくには物流を制する。それが同社のモットーだ。

在来軸組工法のプレカットでは、この数年ほぼ同規模で推移している。この春は月あたり340～350棟をコンスタントに供給している。特にSSバリューのプレカット工場としては全国トップクラスの実績を持つ。2006年まで全国で1,000社あったプレカット工場は、今や全国600社。淘汰の激しい軸組プレカットの世界では待っているだけでは採算性の確保は難しい。近年は大手プレカット工場各社と同様、値下げ攻勢の厳しいパワービルダーの取引を控えているほか、定期的な粗利のチェックを行い、必要に応じて部材の変更を取引先に提案するなど採算性を最重視し、黒字体質の維持につとめている。

軸組工法としては昨年から増加しつつある木造公共建築に対応するため特殊加工機（平安コーポレーションFZ-60W）を新たに導入し、6月から稼動させた。登り梁や斜め加工に適したラインである。全国7番目の規模の生産施設としては、設備投資にかなり慎重な姿勢とも言える。公共物件では山武市八街中学校の武道館を200人工で行なうなどラインで回すより手加工の人工で回すことが多かったという。なお、同グループのなのはなハウジングは不動産の下請けを中心に昨年は185棟、今年は年間200棟を目指している。



東金工場（羽柄・床版・２×４）ではこの春から１ラインを増設　新ラインで月産600～800坪の増産

【詳細はMachiningCore 2012年7月号】